

新年にあたって

日高農業改良普及センター所長 江森 健司



新年明けましておめでとうございます。
います。

平成25年の新春を迎え、謹んで
ご挨拶を申し上げます。

昨年の農業を振り返ってみます
と、春先には天候不順に見舞われ
たものの、7月から9月にかけて
の好天にも恵まれ、最終的には各
作物ともほぼ平年を上回る生産を
あげることが出来ました。

基本技術の励行をはじめ、適正
な肥培管理、土づくりの推進など
生産者皆様の営農努力に対して敬
意を表します。

品目的に見ますと、水稲は全道
作況指数と同様「107」の高収
量となり、全体的にもタンパク、
アミロース含量が低く、食味の大大
変良い米が生産されました。

牧草は一番草の収量・品質とも
に良好でしたが、二番草は8月か
ら9月にかけて高温・小雨のため、
収量的にはやや少ない傾向となり
ました。全体的には降雨にあたら
ず、良質の乾草が確保できました。
サイレージ用とうもろこしは春
先播種が遅れたものの、8月から
9月にかけての高温により登熟は
順調に進み、収量・品質的にも良
質なサイレージ用原料が生産され
ました。

野菜の主力でありますミニトマト
トは生育期間を通して、果実の肥
大や品質が良好で収量的には前年
を上回りました。

肉牛の素牛出荷頭数は前年より
やや減少したものの、素牛販売価
格は出荷までの飼養日数が下回り
日増体重も増加したため前年を上
回る結果となりました。

一方、地域農業を支える軽種馬
生産は相次ぐ地方競馬の撤退や長
引く景気低迷の影響により依然厳
しい状況ですが、馬市場での売却
率や一頭当たりの販売価格などは
やや回復しております。

また、ホッカイドウ競馬の発売

成績が二年連続で計画・前年実績
を上回ることができ、中央競馬会
でも地域の生産馬が重賞レースで
優勝するなど明るい話題もありま
した。

今後も軽種馬生産の構造改革に
向けては強い馬づくりを推進し、
また、他作目（肉牛・野菜）への
経営転換の検討など現状の経営状
況を見直すなど、生産者・関係機
関が一体となり力をあわせて進め
ていくことが重要と考えておりま
す。

昨年12月には総選挙が実施され、
国内農業の方向性はまた不透明で
はありますが、T P P交渉への行
方など今後もさらに注意深く見て
いく必要があります。

日高農業改良普及センターは、
地域農業の重点課題の解決に向け
た普及活動を進めておりますが、
地域農業の維持・活性化のため
も地域農業の担い手の育成・確保
に力を入れ、安全・安心な農畜産
物生産体制の確立、地域ブランド
の育成・支援、農業の六次産業化
（高付加価値化）推進、協業法人
化の支援などの取り組みを進めて
いきます。

生産者・関係機関の皆様と連携
を密にして、地域から信頼される
普及活動に取り組んでいきたいと

考えておりますので、今後もご支
援をよろしく願います。

最後になりましたが、本年も、
皆様にとりまして輝かしい一年と
なることを心よりご祈念申し上げ、
年頭のご挨拶とさせていただきます。

